

箱根駅伝予選会 部便り

目次

1. 監督より
2. 結果
 - 2.1 総合結果
 - 2.2 個人結果
3. 長距離チーフの言葉
4. 出場選手の言葉
 - 4.1 学部生
 - 4.2 院生
5. 新長距離チーフの言葉
6. 自己記録更新者一覧
7. 2017年度部内五傑
8. 今季樹立東大記録一覧
9. 主務より

1. 監督より

監督・藤田靖浩

今年度の箱根駅伝予選会は立川の昭和記念公園において、20kmで開催される最後の予選会ということで、学部生は東大記録の更新を目標に挑みました。

個人では3年近藤が安定したペースを保ち、終始日本人トップ集団におり、ラストは少し差がついたものの59分54秒で20位、日本人14位。関東学生連合チームに一番手で選ばれました。

一方、チーム全体では11時間00分18秒の32位と残念ながら東大記録の更新は叶いませんでした。コンディションも良く、崩れた選手はほとんどいなかっただけに、改めて3番手以下の実力不足を感じる結果となりました。

今回、学部生は1年生から4年生までバランス良く出場しておりますので、この悔しさをしっかり練習に繋げ、来年は更に順位を上げていきたいと思っております。

また、直前でメンバーが揃いなんとか出場できた院生チームは12時間08分41秒の49位。完走しきれなかった昨年の悔しさは晴らすことができました。

2. 結果

2.1 総合結果

・上位10校が本大会に出場

1	帝京大学	10時間 04分 58秒
2	大東文化大学	10時間 05分 45秒
3	中央大学	10時間 06分 03秒
4	山梨学院大学	10時間 06分 21秒
5	拓殖大学	10時間 06分 27秒
6	國學院大學	10時間 07分 35秒
7	国土館大学	10時間 07分 47秒
8	城西大学	10時間 08分 50秒
9	上武大学	10時間 09分 42秒
10	東京国際大学	10時間 10分 34秒
11	日本大学	10時間 12分 05秒
12	創価大学	10時間 13分 04秒
13	明治大学	10時間 13分 05秒
14	専修大学	10時間 13分 40秒
...		

32	東京大学	11時間00分18秒
...		
49	東京大学大学院	12時間08分41秒

2.2 個人結果

1	レダマ・キサイヤ(2)	桜美林大学	57:27
2	ドミニク・ニヤイロ(3)	山梨学院大学	57:33
3	サイモン・カリウキ(3)	日本薬科大学	58:11
4	パトリック・M・ワンブイ(3)	日本大学	59:02
5	ムソニ・マイル(2)	創価大学	59:06
6	タイタス・ワンブア(2)	武蔵野学院大学	59:10
7	畔上 和弥(3)	帝京大学	59:30
8	中山 顕(3)	中央大学	59:36
9	林 日高(4)	大東文化大学	59:38
10	坂本 佳太(4)	上武大学	59:41
...			

【学部】

20	近藤 秀一(3)	東京大学	59:54
270	阿部 飛雄馬(2)	東京大学	1:03:39
373	栗山 一輝(2)	東京大学	1:06:14
376	松本 郁也(1)	東京大学	1:06:27
403	遠藤 正陽(2)	東京大学	1:07:02
409	大庭 帆貴(1)	東京大学	1:07:12
412	油井 星羅(3)	東京大学	1:07:16
413	須藤 克誉(4)	東京大学	1:07:22
416	田村 和也(4)	東京大学	1:07:33
420	大日方孝輝(4)	東京大学	1:07:39
427	妹背 雄太(4)	東京大学	1:07:57
437	伊藤 慎(3)	東京大学	1:08:11

【院生】

258	渥美 祐次郎(M2)	東京大学大学院	1:03:17
339	福島 洋佑(M1)	東京大学大学院	1:05:19
415	阪田 暁(M1)	東京大学大学院	1:07:31
534	小澤 昂平(M1)	東京大学大学院	1:12:11
555	岩渕 康太(M1)	東京大学大学院	1:13:58
562	織原 健人(M1)	東京大学大学院	1:16:16
564	柏原 翔一(M1)	東京大学大学院	1:16:57

566	松丸 大樹(M1)	東京大学大学院	1:17:07
568	原 耕資(M1)	東京大学大学院	1:17:20
572	梁瀬 将史(D2)	東京大学大学院	1:18:45

3. 長距離チーフの言葉

学部長距離チーフ 松本啓岐

長距離チーフを務めておりました、4年の松本です。予選会は、今回で20kmのコースで走るのが最後となり、来年からハーフマラソンと同じ距離になります。したがって、20kmのコースでの記録が残るのも今年が最後でした。そのことをふまえ、今年は「不滅の東大記録」を出すことを目標に掲げました。つまり、2年前に更新された東大記録の10時間52分13秒を更新するという目標です。

結果としては、11時間00分18秒で、目標まで8分強足りませんでした。夏頃から立てていた見通しや個々の目標と、今回のレースの結果を比較すると、予定通りに走ることができたのは近藤(3)だけでした。チーフであり本来3番手である私が故障のため出走できなかったこと、阿部(2)・栗山(2)の2人が予定よりタイムを稼げなかったこと、4番手以降の集団のペースが目標ペースに一段階届かなかったことが今回の反省点です。集団走はうまくいきましましたし、公園内で崩れる選手はほとんどいませんでした。コンディションも素晴らしいものでした。そのため、当日は実力を最大限に発揮できた選手がほとんどでした。それでも東大記録に到達することができなかったのは、到達するために必要なだけの実力がなかったということ、この1年間でその水準まで個々の能力を高めることができなかったためだということになります。

目標を決めたらそこまでの距離を逆算し、長期的な視野を持って段階的に成長していく。近藤や油井(3)のように、そのような取り組みができたことで大きく成長できた選手もいますが、チーム全体としてはそれができなかった人が多かったということになります。これは、チーフを務めていた私の力量が足らなかったことに他なりません。

幸い、上位10人のうち7番目までは3年生以下であり、来年はチームとしてよりレベルアップした状態で臨むことができます。個人としては、この1年でさらに力をつけ

た近藤が、個人20位(日本人14位)という圧巻の走りを見せてくれました。学生連合チームの一員として本年度の箱根駅伝を走ることほとんど確実でしょう。近藤の走りに触発されて他の部員が高みを目指そうと一念発起すること、及びこれからチーフを務める近藤が強い長距離パートを作ってくれることを祈念して、私ども4年生は陸上運動部より身を引かせていただきます。

OBの皆様には日頃より温かいご支援をいただきありがとうございます。長距離パート全体としては何一つ誇れる結果を残せず申し訳ない限りではございますが、部員一同めげずにまた頑張っていく所存なので、どうか今後とも変わらぬご支援のほど、宜しく願い申し上げます。

院生長距離チーフ 岩淵康太

院生長距離チーフを務めております修士1年の岩淵康太です。当日は応援、サポート誠にありがとうございました。

今大会の院生チームは、直前に体調を崩した選手や7km 地点で腹痛に見舞われる選手が出るなどトラブルが相次いだこともあり12時間8分41秒で最下位。2004年の初出場以来最も遅いタイムでのフィニッシュとなりました。しかし、記録なしで終わった前回から僅かながら一歩前進することができ、標準タイムが変わる来年に向けて良い収穫を得られたと思います。

さて、4月から半年に渡ってチームのまとめ役を務めて参りましたが、当初のチーム状況は惨憺たるものでした。昨年のメンバー11人のうち6人が卒業もしくはエントリー回数制限超過となり、残りの5人のうち今年度有効な公認記録を持っているのは2名のみ。幸運なことに今年は外部からの入部者に恵まれ、それなりの部員数を揃えることが出来ましたが、それでも標準突破者は7名という厳しい船出でした。

次に問題になったのは練習です。院生チームでは代々週に1度本郷周辺で独自にポイント練習を行って参りましたが、その習慣が昨年で立ち消えになっていました。このままでは予選会出場は無いと思い、拙いながらもメニューを組み練習を再開。部員の皆も協力的で、チームの

戦力向上に微力ながら貢献することができたと思います。

そしてもう一つの問題は私自身です。例年はM2世代がチームの中心を担ってきましたが、今年度のM2世代は外部からの新規加入が無かったことから部員数が少なく、引き受けてくださる方がいなかったため私がチーフの役を賜りました。学部時代は責任ある役職に就くことも無く自由に走っていた私にとって、チーフという役職は重すぎる大役です。しかし、予選会出場を目指して集まった同期や、経験豊富な先輩方が私を支えてくれたお陰で、ここまで辿り着くことができました。心より感謝申し上げます。

今年度は戦力・練習・チーフの全てが立て直しの途上にあり、思うような結果を残すことが出来ませんでした。

「強い陸上部」を目指す学部チームの皆さんから見れば、チーム作りに四苦八苦している院生部員たちは情けなく思えたかもしれません。しかし、「復旧」という側面で見れば、今年の院生チームは少なくない成果を上げてきました。途絶えかけていた先輩たちの思いは、我々に確実に受け継がれています。

私の役目はここまで。復旧後の「発展」は、後輩たちに託すことにします。4年生で大学院に行く後輩諸君にとって、私たちが残したものは面倒で無視したくなるものでしょう。しかし、院生チームが箱根駅伝予選会に出続けることは大きな意味があります。その意味を汲み取って、来年以降も走り続けて欲しいです。私も、卒業するまで全力でサポートします。

4. 出場選手の言葉

4.1 学部生

妹背雄太(4年) 1時間07分57秒 427位

今年の中堅層が薄いのが、12番手まで遜色なく走れるというのが特徴で、8,9人の集団を形成する予定でした。駐屯地内はかなり走りやすいので5km16分30秒程度で通過し、そのままのリズムで市街地は3分20秒ペースで刻むというのが集団の理想の目標でした。

自分自身は直前の練習の調子はよく、3分20秒ペースで入っていく目処は十分に立っていましたので、目標は66分40秒(1km3分20秒ペース)、あわよくば終盤のスパートでそこから削るつもりでした。東大記録更新のた

めには、10番手までが66分40秒以内ではまとめるのが一つの目安だと感じていました。

本番は入りのペースが少し遅い、間に集団が入って分裂してしまうなど序盤からうまくいかない所があり、手元で10km通過33分22秒と予定より少し遅くなってしまいました。しかし田村と大日方の尽力や声かけもあって8人での集団形成には成功し、最善は尽くせたと考えています。

自分自身は15kmを余裕を持って通過できましたが、脚力、距離耐性不足でアップダウンのある公園内で脚を攣ってしまって終盤全く思うような走りができず、チームに貢献することができませんでした。長4の意地を見せたい思いが強かったのでやりきれない気持ちで一杯です。

自分は4年目にして初の予選会でしたが、おそらく人生で一番応援してもらいました。色んな人が目に入り、声をかけてもらってとても嬉しかったです。応援してくださった東大陸上部関係者の皆様には大変感謝しております。ありがとうございました。

大日方孝輝(4年) 1時間 07分 39秒 420位

1週間前に風邪気味で体調を若干崩しましたがすぐに体調は元に戻せました。動きはいい状態を維持出来ており不安はありませんでした。当日のコンディションは雨でアップや準備がしにくいということはありませんでしたが、走るにはいい天候で、スタートラインには万全な状態で立てたと思います。

今年のチームは4番手以降の力が拮抗していたため、9人程度の大きな集団で集団走をする予定でした。自分と田村が10kmまで引っ張り、5km通過が16'30"~35"、10km通過が33'10"を目安にしていました。5km通過は予定より少し遅かったですが、3'20"で集団をうまく形成出来ているようでしたので無理に上げずこのまま10kmまで行ければタイム的にも十分だと思いました。しかしそこから徐々に自分の余裕が無くなってきてペースもじわじわと落ち、結局9km過ぎで自分は引っ張れなくなって、そのまま集団の後ろに下がったものついていけなくなりました。集団に動揺を与えてしまった上に、その後の集団をまとめる負担を全て田村に押し付ける形にな

ってしまい申し訳なかったです。集団を引っ張り続ける力がなく、自分の力不足を最後に痛感しました。

苦しいレースではありましたが、皆さんの応援が力になって何度も自分を奮い立たせて頑張れました。本当に力になりました。結果で恩返しが出来なくてすみません。4年間本当にありがとうございました。

須藤克誉(4年) 1時間 07分 22秒 413位

東大記録更新というチーム目標のため、個人としては66分以内に確実に抑えることが目標でした。学部生として最初で最後の予選会でしたが、今回のメンバーは初出場の下級生が中堅層に特に多いこともあり、同期の田村と大日方に集団走の引っ張りを任せてしまうことに甘んじる立場だったので、その分自分がしっかり中堅層の上位で走って記録に貢献しようという意識で出走しました。

レースプランとしては、集団走について10kmを33'10"で通過し、そこから大日方と一緒にペースをあげて66分を切るという予定を立てていました。

ただ、走り出してみると集団走自体には無理なくついていけた一方、余裕があるわけではなく、10km時点で、ここで上げたらラストが耐えきれないだろうと判断し、集団に残りました。時計は見えていませんでしたが、集団走のペースが予定通りにいっていないことは肌で感じていました。公園内に入って上げましたが、上げるタイミングが少し早かったのか、1~2kmを残して余力を使い切ってしまう、後輩3人に抜かれてチーム内8着でゴールしました。

結局33'26-33'56というラップで、これが自分の実力だったのだと思います。秋シーズン、練習は上手く行ってはいたのですが、その分楽観的になりすぎていた節がありました。何より同期の2人に頼りっきりで過度な負担を強いてしまいました。2人にもう少し伸び伸びと走らせてあげられなかったことが本当に悔しいです。

ただ、この2ヶ月の経験を共有出来た後輩が多くいたことは来年以降に向けて必ずプラスになるとと思います。彼らはこのレースを糧にして来年さらなる飛躍を遂げてくれることと思います。

最後になりますが、この素晴らしい大会で皆様のご声援を受けながら最高のチームで本気で勝負出来たことはかけがえのない経験だったと言えます。来年はおそらく

大学院生として立川で走ることにになります。チーム出場、記録を残すこと以外の大学院チームで走ることを意味を同期と模索しながらこの舞台に戻って来ようと思います。4年間本当にお世話になりました。今後ともご支援の程、よろしくお祈りします。

田村和也(4年) 1時間 07分 33秒 416位

学部生としての最後の予選会は、今まで立川を走った試合の中で一番遅いタイムとなってしまいました。チームを引っ張っていくべき4年生が崩れる結果となってしまい、最終学年としての意地を見せることができず、不甲斐ない思いで一杯です。

ですが、今回は集団を引っ張る役割を担い、公園に入るまでずっと集団を引っ張りました。その結果、予定していた通過タイムより遅く引っ張ってしまったのが心残りですが、後輩たちが前半で余裕を持って、公園内を粘る走りが出来たのであれば、先輩として冥利に尽きます。

当日の応援やサポートはもちろんのことですが、部の役職として中長会会計の仕事を務め、中長会特別寄付の活動を通じて、本当に多くの方々のご支援のもとに陸上が出来ていることを痛感いたしました。この場を借りて感謝を申し上げたいと思います。今までありがとうございました。

伊藤慎(3年) 1時間 08分 11秒 437位

試合までの流れ

夏合宿から長い距離への耐性がついてきて、予選会に向けて距離を踏むことに集中でき、チーム内では走れている方でした。しかしその後風邪で体調を崩し選考会でうまく走れず補欠となりました。その後も夏ほどの調子を取り戻せず、予選会半月ほど前に先輩が走れないため自分が走るようになった時は調子を取り戻すことに集中しようと考えました。直前の練習等はチーム全体で集中してこなすことができていたと思います。

当日

調子が上がったとはいえ他の人と力の違いを感じたので自分のペースで走ると決めました。10キロ通過33'37で、東大の集団とは20秒ほど離れてペースを維持していました。反省としては多少無理してでもペースを作ってくれていた東大の集団につくべきだったとも思います。後

半は少し余裕を残して公園内に入れたと思ったのですがアップダウンでかなり削られてペースが上がりませんでした。ゴールタイムは68'11でこれまででは一番はやく20キロを走れましたがチーム内12番手で不甲斐なかったです。多くの方に応援していただいたり、走れない人がいたりする中、目標も達成できず申し訳ないと感じました。

今後

今は試合から切り替えていこうと考えており、予選会のはぼり下りの走り方の下手さや、そもそもの走力不足等多くの課題が見つかったので、日々の練習で目指すべき大会を意識して自分の満足いく走りができるように頑張っていきたいと感じました。応援ありがとうございました。

近藤秀一(3年) 59分 54秒 20位

長距離3年の近藤です。今回の箱根予選会のチーム目標は10時間52分13秒の東大記録更新でした。その上で、個人としての目標は60分切りでした。

前回までは関東学生連合のメンバーに入ることを最優先していましたが、箱根への挑戦が事実上途絶えてから学生連合に対しての未練はなくなりました。出走権利は復活しましたが、学生連合に対する思いよりも、チームの主将・エースとして意地を見せたいという思いが先立ちました。

2週間前から多少の鼻水や痰に悩まされていたものの、練習の流れとしては完璧で、当日も自分の思い描いた走りができる自信はありました。

当日はコンディションが抜群によかったのと、途切れることのない応援のおかげで無事目標の60分切りを達成することができました。しかしながら、チーム記録は目標には大きく及びませんでした。皆ベストを尽くした上での今回の結果は危機感を持って捉える必要があるように思います。

応援してくれる方の、「近藤はもう来たのか!」と言わんばかりの歓喜と興奮が混ざった表情が印象でした。少しは人の心を動かすレースができたのかな、と思います。これからのレースでも主将・エースとしての意地を走り示して、「俺もやってやるんだ」という雰囲気チームに伝播させていきたいと思っています。

また、今回の結果で関東学生連合のメンバーに選出して頂けたので、本戦を走れるように万全の準備を進めていきます。

最後になりますが、朝早くからの応援・サポート、本当にありがとうございました。そして、ここまでチームを牽引して下さった4年生には心から感謝しています。お疲れ様でした。

油井星羅(3年) 1時間 07分 16秒 412位

チーム目標は東大記録の更新、個人目標は66'30でした。5000mの自己ベストが16'20なので5kmあたり遅くともベスト+15秒で走らないといけないという状況でしたが、トラックよりもロードが得意であること、この一年の練習内容をみてもベストレースが出来れば届く目標であると考えていました。当日の天候は気温が低く湿度があり、長距離には最高のコンディションでした。

スタートは無理せず入ったところ、慎重になりすぎていたのか駐屯地5km通過が設定タイムより5秒ほど遅れ、やや遅いまま東大の集団走が10kmまで続きました。四年生の引っ張りのおかげで精神的には楽に走れていましたが、どこかから誰かがペースを上げる必要があるように感じました。公園内に入って最初のアップダウンで自分が引っ張った方が良いと思い、ペースを上げました。さすがに公園内の坂は脚と肺に厳しく、崩れそうになるたびに沿道の人々の応援や一緒に走ってくれるメンバーの励ましを支えに粘って走りきりました。

結果は67'16で、序盤の遅れが目標タイムにそのまま響きました。後半ペースを上げられず、チームを引っ張ってくれた四年生の頑張りに応えられなくて申し訳なくおもいます。また、東大記録更新のためにサポート・応援してくれた部員に恩返しができず、対校選手としての責任も感じました。

自分は強い選手ではありません。対校戦で敗れてきたこのシーズンを通して、また強い東大を目指していくには近藤のようなエース級の選手に頼るのではなく自分のような下位層の人間が力をつけて底上げを図る必要がある、と痛感しました。あと一年ですができる限り成長していきたいと思います。

遠藤正陽(2年) 1時間 06分 36秒 354位

・レースまで

年明けごろからの不調に悩まされたシーズンですが、一橋戦のあたりから不調を脱することができました。

シーズン前半は実際の走力が思い描いているものと噛み合わずに、無理な設定で練習がこなせないなど、反省点は多かったです。前述の通り一橋戦のあたりから不調を脱し、9月に入ってから走りが型にはまってきました。

しかし、今までで一番速かった頃の状態までは持っていけませんでした。

・レース当日

体調は万全でした。アップしていても特に不安なことはありませんでした。スタート後のリズムが悪く、集団のペースが下がって各自の目標ペースからは遅くなってしまいう結果となりましたが、終盤公園内で全員失速したものの大崩れはしませんでした。自分自身、予定より1分遅いタイムでしたが、レース展開は完璧で今持っている力は全て出さされました。

・反省

ベストの状態までは持っていけず、自分が掲げた目標に遠く及ばなかったことをお詫びしないといけません。見通しが甘かったです。年明け以降、追い込み切る練習が十分にできていなかったことが露呈しました。

・今後

12月の第2週のしおかぜ駅伝を目標として残りのシーズンは練習していきます。意識を置くのは、1000mなどのインターバルを走る時の速度帯での動きを固めていくことです。しおかぜ駅伝ではロードの7.5kmになるはずなので、ここぞと言う時のスピードも重要になります。

・最後に

予選会に向かっていく4年生の皆さんの姿はとて素敵かったです。僕は安心してついていだけでした。多くを学ばせていただきました。本当にお世話になりました。

阿部飛雄馬(2年) 1時間 03分 39秒 270位

この夏は冬季のマラソン挑戦に向けた下地作り期間と位置づけ、地道な走り込みを継続して行ってきました。

しかし自分で立てた練習の組み方があまりマッチしていなかったためか、ポイント練習でのタイムが振るわず思うようなタイムで走れない期間が長く続くこととなりました。9/23の日体長を契機に残り3週間は調子を上げるための努力に時間を費やす方針を固めました。調子が悪い中ですっぱりと割り切り、心的にも計画的にも余裕を持たせて練習をしたおかげで予選会当日に向かって日に日に調子を上げることができたのだと思います。

予選会当日は落ち着いてレースをすれば確実に実力を100%発揮することができる状態で臨めました。一方で、実力以上120%を発揮する身体的タイミングにはありませんでした。スタート後の人波にも一切動じずプラン通りに淡々と走った結果、昨年と大差ないタイムでゴールしました。

今の実力を100%発揮したうえでこの結果でした。レース内容をどういじってもこれ以上の結果を望むことはできません。不調から適切な方法で脱し、合わせるべき大会で100%の実力を発揮できたことは素直に自分の強みであると感じます。

私が目指す選手像は本戦出場校のトップ選手と対等に渡り合う姿です。学連選抜16番手まではあと2分、10番手までは2分半の短縮が必要です。今後はフルマラソンに向けたトレーニングによりステージアップを図っていこうと思います。

栗山一輝(2年) 1時間06分14秒 373位

本番2週間前までは予定通りの良い流れで練習することができていたものの、そこで足を痛めてしまい調整練習を中断することになってしまった。2、3日は走らずに過ごし、バイクトレーニングに置き換えるなどしてなんとか本番には間に合わせたが、本番前1週間の練習不足に不安を感じながらのレースとなった。

実際、5kmくらいまでは特に問題なく流れていたが10kmくらいで余裕がなくなり、なんとか粘ろうとしても公園内では足が攣ってペースを下げざるを得ず、なんとかゴールに辿り着いただけだった。前半をもっと抑えて入っていればもう少し良いタイムでまとめられた気はするが、自己認識の甘さにより無謀なレースをしてしまったという感想。

この冬はトラックでのスピード練習を重視しつつも定

期的にロングジョグを入れて距離耐性をつけ、来年3月の立川ハーフに向けた実力アップを図りたい。

大庭帆貴(1年) 1時間07分12秒 409位

自分はギリギリで調子を上げて予選会メンバー入りしたので、先輩についていけるか心配でしたが、それでもここ二週間の練習ではどんどん調子が上がってきていてしっかりと自分の決めた設定ペースをこなせていました。そのため、普段より一段階早いペースでも20kmを走りきれるかと思っていたが少し甘かったと思いました。最初の5kmで少し体力を使いすぎてしまい、公園内でのラストパートが上がりきりませんでした。実力が足りないことを身にしみて感じました。

ただ、僕にはまだ3回予選会を走れるチャンスがあります。1年のこの時期に予選会を走らせていただいたことは絶対に良い経験になったと思います。無論、来年も予選会で走るにはチーム内での争いに勝たなければなりません、一年という時間を有効に使って基本ペースの向上、自分一人でもペースを作る安定性を身につけてチームの軸に近づけるようにしていきたいです。まずは、同学年の郁也に勝つことを目標にしていきたいと思いません。

松本郁也(1年) 1時間06分27秒 376位

結果は66'27で376位、チーム内4位でした。僕自身の目標は65'30、チームの目標は東大記録更新であり、東大記録更新には中堅である自分が65分台で走る必要があるなと感じていました。

レース内容は10kmまで集団走をしそこからビルドアップしていくという予定通りの走りでしたが、前半の10kmも後半の10kmも予定より少しずつ遅くなってしまい個人の目標、チームの目標共に達成できませんでした。

僕は箱根駅伝予選会を走るのは初めてでしたが、沿道の応援が絶えることなく走るのはとても楽しかったです。公園内に入ったラスト5kmは辛かったです。応援に後押しされて最速ラップで走ることができました。応援ありがとうございました。今後の目標は、まずは今シーズンに5000mで14分台を出すことです。そして来年の予選会では今年から大きく成長した走りが見せられるよう

に頑張っていきたいと思います。

4.2 院生

梁瀬将史(D2) 1時間 18分 45秒 572位

最後の予選会は最も不甲斐ない結果に終わってしまいました。公園に入ってから足が釣りそうになり全くペースが上がらず、チーム記録を残すために制限タイム内でゴールすることだけを考えて走りました。自分が最終ランナーになるなんて思いもしていませんでしたし、個人レースだったら早々に棄権していたと思います。結果では応えられませんでした。応援してくださった先輩、同期、後輩の皆さんからは本当に力をもらいました。他大の応援団や駅伝ファンの方々も僕一人のために一杯応援してくれ、感動しました。予選会にもう悔いはありません。

最後になります。学部から8年間、ご指導・ご支援してくださった全ての方々に感謝申し上げ、締め言葉とさせていただきます。今後は「金は出すが口は出さない」良きOBとして精進していきます。

渥美祐次郎(M2) 1時間 03分 17秒 258位

今シーズンは、実質最終学年であり、本来ならばチームを務めるはずでした。しかし私は自分のやりたいことを優先してチームを断り、大学院陸上部に所属はしながらも全く練習には参加せず、自由に走っていました。昨年予選会はチームの記録が残らずなんとも言えない気持ちになったので、今年はどんな記録でもゴールしてほしいと思っていました。チーム内トップでゴールをして、後ろの選手がやってくるまでの時間が本当に長く感じました。10人目の梁瀬さんが見えたときは、最後の予選会も走ってよかったなと心から思えました。

今年の予選会への取り組みは過去5年とは違いましたが、それでもやっぱり予選会は素晴らしい大会でした。走る機会をくれたチームメイトと関係者に感謝します。また、気持ちよく走れたのは、応援の方のおかげです。ありがとうございました。

福島洋祐(M1) 1時間 05分 19秒 339位

6年間の大学陸上が終わりました。当日のレースは、一縷の希望を持って積極的なペースで入りましたが、中

盤で失速。後半はひたすら耐えるレースとなり、事前に掲げた目標には到底及びませんでした。

正直に言えば、去年の大学院チームが「全員完走」を目標に掲げながらもチーム記録を残せなかった時、「自分にはああはなりたくない」と内心軽侮していました。しかし自分自身が今年、大学院生となり、思い通りの競技生活が送れずに苦しみ、またチームメイトが最後の最後まで標準切りに挑戦する姿に触れることで、陸上競技を続けられる喜び、部活の楽しさ、そして予選会の舞台に東大の代表として立てることのありがたみに、新鮮な気持ちで気付くことが出来ました。東大入学前の自分だったら、そんな当たり前のことが大切だとは思わなかったでしょう。

でも、それが競技者としての視座が下がったことなどは決して思いません。東大陸上部を通じて、沢山の大切なことを学ぶことが出来ました。そしてここまで来るのに、本当に多くの方々に助けていただきました。OB・OGの先輩方を始め、八田先生、藤田監督、松本コーチ、竹井さん、不出来な自分を温かくご指導し続けてくださり、ありがとうございました。そして同期、後輩のみんな、一緒に陸上競技をやってくれて、ありがとう。東大陸上部が大好きです。

岩淵康太(M1) 1時間 13分 58秒 555位

修士1年の岩淵康太です。今回の予選会はチーム記録を残すという目標をクリアすべく走力が微妙な選手のペースメーカーに回り、公園内の関門までは滅私奉公の精神で、その後は自由に走るという計画でスタートしました。

序盤は計画通りに走っていたのですが、10km手前から柏原が遅れ始め、やや先行して走っていた原も腹痛により後退。心配ではありましたが、とりあえず松丸を関門まで連れていく使命を全うすることに注力し、その後は自由に走ってゴール。後続も無事完走し、目標をクリアすることができました。

とりあえず今年度のタスクをクリアすることが出来たので安心していますが、満足しているかということとそんなことはありません。他の選手が少ない後方で走るのは寂しいですし、序盤から終盤まで必死だった昨年と比べて高揚感に欠けるレースでした。また来年も走りたいとい

う意欲に今は燃えています。

今回は公認記録が期限切れになってしまうため、私自身も標準タイムを突破しなければなりません。研究の方も次第に激化してくると見込まれるので、早いうちに記録を出して、後輩たちと共にまた立川のスタートライン立ちたいと思います。

この度は、たくさんの応援、サポート誠にありがとうございました。

原耕資(M1) 1時間 17分 20秒 568位

万全の状態ではなかったですが、20km という距離に挑戦する一区切りとして臨みました。個人としての結果は思わしくなかったですが、チームとして記録を残せたことは貴重な経験となりました。今後はもう少し短い距離にシフトしてあと1年頑張ろうと思います。応援ありがとうございました。

小澤昂平(M1) 1時間 12分 11秒 534位

予選会の2週間前まで5000mに合わせた練習をしていたため20kmを走る練習が不足しているのが否めない状態で当日を迎えました。直近の5000mのタイムとハーフマラソンの自己ベストから判断すると72分前後の記録になると思いましたが、周りの選手をうまく利用すればもっと短縮できると考え目標を71分にしました。最初は3'30ペースで入りましたが駐屯地内から息苦しさを感じ、7km過ぎでペースダウンしてしまいました。その後は一人で走る時間が長かったのですが12km付近で持ち直し公園に入った後も何とかペースを保つことができました。

走りやすい天候ではありましたが公園内はアップダウンが激しく非常につらかったため皆様の応援が励みになりました。本当にありがとうございました。ペースにムラがありましたが当日できる最高のパフォーマンスを発揮することが出来ましたしチームとしても記録を残すことが出来たので悔いはありません。来年からは標準が10000mの記録のみになってしまうため今年以上に出場が難しくなりますが来年も院生チームが予選会に出場できることを願っています。

最後に応援・サポートしてくださった皆様に心より御

礼申し上げます。そして申込前日に予選会の参加標準を突破し、私の念願であり大学院でも陸上を続けた理由でもある箱根駅伝予選会への出場を叶えてくれたM1の柏原に謝意を表します。

織原健人(M1) 1時間 16分 16秒 562位

去年で燃え尽きたため、今年はあるつもりがなかったのですが、人数の関係で出場しました。練習をしていなかったため、完走を目標で臨みました。直前の練習では、何とか完走はできるかという感じでしたが、本番はコンディションが大分よかったため、失格はないと思い、余裕を持って臨めました。最初に突っ込みすぎないことを意識して、ペースを刻むことに専念しました。これまでの4回にはない、新鮮な5回目の風景でした。結果的に大きく落ちることはなく、無難にまとめられたと思います。タイムも残り良かったと思います。

これからのことはしっかりと考えているわけではありませんが、できる範囲でまじめに練習をして、長めの距離の試合に出たいと思います。応援サポートありがとうございます。

松丸大樹(M1) 1時間 17分 07秒 566位

柏キャンパスのため、集合練に参加できるのが土曜日だけだった。6月の日体大記録会でペースメーカーとして岩淵に引っ張ってもらい16'29で何とか標準タイムを切ることが出来た。それ以降、研究などで練習に参加できないことが増え、7月の夏合宿ではかなり走力が落ちていた。いつの間にか10月になり、本当に出場することが決まったため、走り切らなくては！と気持ちが引き締まった。

本番当日は雨で走りやすい気候だった。前半の公園に入る所までは岩淵に引っ張ってもらった。気持ちと体のせめぎあいが続き、しっかりと気を保っていないとたれてしまいそうなぐらいギリギリの厳しさだった。岩淵が何度も後ろを振り向いて確認してくれたこと、柏原がいてくれたこともあって何とか粘ることが出来た。柏原が途中で落ちたが、織原が後ろから来てくれることを聞いて安心した。応援がとても力になった。公園に入って岩淵と離れてからは安心してしまい、ペースが落ちてしま

った。頑張っペースを落とさないようにしようとしたが厳しく、公園内がとても坂の多いコースに感じられた。足がつりそうになってペースを上げるのを諦めていたところ、ゴールまで距離が分からずよろよろ走っていた自分を柏原が抜いていった。

今年度中に34分を切って来年は70分を切りに行きたい。東大の人からの応援で名前を呼ばれることが少なかったのでこれから良い意味で知名度を上げていきたい。

柏原翔一(M1) 1時間 16分 57秒 564位

9/30の横浜市ナイターで資格記録を突破し勢いに乗っていましたが、試合4日前に胃腸炎に罹り体調を崩してしまいました。試合前日にギリギリ胃腸は回復したものの、走力が完全に回復する前に試合本番を迎えることになりました。このため、71~73分としていた目標を大幅に引き下げ、制限時間以内の完走をしてチームの記録を残すことを第一に考えて走りました。

今回はレースの序盤は岩淵に引っ張ってもらい松丸と一緒に3'40ペースで走っていたのですが、駐屯地内でもう既に余裕がなく苦しいレースでした。10km手前で岩淵の集団から脱落してしまい、15km以降は足が重く全然スピードが出なくなりましたが、ラスト1kmは何とか最後の力を振り絞ってスパートをかけ、3~4人程選手を追い抜いてゴールしました。

ずっと目指していた試合に万全な状態で臨むことができなかったことはとても残念でしたが、初めて箱根駅伝に出場することができ、大観衆・大声援の中走ることが出来たのは良かったです。これまでお世話になった先輩や後輩、共に練習した仲間、その他関係者の皆さんが随所で応援してくれて本当に心強く、力になりました。来年こそは予選会に万全な状態で出場し、大学/大学院6年間の陸上生活の有終の美を飾りたいと思います。来年の予選会は5000m 16'30の標準記録が廃止され、10000m34分を切らなくてはならないため、今年よりも厳しくなりそうですが頑張っていきたいと思います。

最後に、朝早くから応援・サポートしてくれた皆さん、本当にありがとうございました。

阪田暁(M1) 1時間 07分 31秒 415位

高校までは陸上をやっていましたが、学部時代はトラ

イアスロンに打ち込んでいました。院入学を機にもう一度陸上に取り組みたいと思い、陸上部の練習に参加させていただいています。

レース自体は、自分の実力を100%発揮できた結果になりました。学部生の集団と終始安定したペースを刻み、公園内での落ち込みも最小限に抑えることができました。

今回の予選会出場にあたり、自分の中では予選会がそれほど特別な大会という意識はありませんでした。トラックの5000mでタイムを伸ばすことのほうが自分にとっての優先順位は高く、予選会を20kmのロードレース、程度に考えていました。しかし実際に出場してみると、その考えは大きく変わりました。スタートの1時間以上前から応援合戦が鳴り響き、沿道からはあふれんばかりの観客が応援を送ります。こんな応援の中走る機会は、箱根本戦やオリンピックにでも出ない限り、これ以外にはないのではと思うほどでした。各校は団体戦としてチームで戦い、仲間の結果をともに喜び悔しがる、これほど熱い大会だったとは知らず、衝撃を受けました。これなら、大学4年間で予選会を最大の目標とするのも頷けると感じると同時に、来年もう一度走りたいと強く思いました。

事前の準備から当日のサポートに至るまで、様々な面から支えて下さった皆様、応援ありがとうございました。

5. 新長距離チーフの言葉

学部新長距離チーフ 近藤秀一

長距離パートチーフの近藤です。今回の予選会の目標は10時間52分13秒の東大記録更新と決めました。今年を最後に距離が20kmからハーフマラソンに変更されるので、従来の東大記録を更新するラストチャンスでした。

正直、夏以前はコンディションの悪い部員がかなり多く、チームとしてもまとまりを欠く状態でした。七大戦が終わってからは心を入れ替えて、夏合宿、秋シーズンとチームの完成度が高まっているのを感じ、部員のコンディションも整っていきました。最後の2ヶ月の流れで言えば、個人単位でのアクシデントがあったものの、チームとしてはかなり良い流れで予選会に向かうことができたと思います。

しかし、結果は絶好のコンディションであり、走った選手は全員実力を出し切れたのにもかかわらず、目標に8分及びませんでした。

この結果をどう受け止めるべきか。本当に危機感を抱くべきです。チームのベース、当たり前のレベルが直近2年間と比べても低下していることが露呈しました。来年もこの状況が続けば、もう”危機感”という言葉は使えなくなってしまうでしょう。長距離パートに限らず部全体に当てはまることですが、燻っているのが当たり前になって真の喜びを味わうことのないまま競技を終えてしまう状況を打開するのは次の1年がラストチャンスだと考えています。

足元の悪い中、朝早くからの応援・サポート本当にありがとうございました。来年こそは大きなことを成し遂げられるよう部員一丸となって精進していきます。

6. 自己記録更新者一覧

10/14 第94回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会

20km	近藤秀一(3年)	59'54
20km	栗山一輝(2年)	66'14
20km	松本郁也(1年)	66'27
20km	遠藤正陽(2年)	67'02
20km	大庭帆貴(1年)	67'12
20km	油井星羅(3年)	67'16
20km	須藤克誉(4年)	67'22
20km	伊藤 慎(3年)	68'11

7. 2017年度 部内五傑

(順位 氏名 (学年) タイム 日付)

男子 100m

1	聲高健吾(1年)	10"83(+0.4)	7.1
2	阿久津大貴(2年)	10"85(+0.8)	7.30
3	河野太郎(4年)	10"96(+1.0)	5.7
4	井上昂(1年)	11"02(+0.9)	7.30
5	伊藤康裕(2年)	11"15(+1.4)	9.24

男子 200m

1	聲高健吾(1年)	21"58(+1.7)	5.27
2	河野太郎(4年)	21"61(+0.6)	5.27
3	阿久津大貴(2年)	22"48(+1.5)	7.1
4	長久将(4年)	22"64(+1.0)	6.17
5	伊藤康裕(2年)	22"66(+1.8)	9.24

男子 400m

1	河野太郎(4年)	49"85	4.8
2	小嶋健太郎(3年)	49"92	7.1
3	長久将(4年)	50"28	7.1
4	松田光陽(2年)	50"79	6.4
5	寶田雅治(4年)	51"23	5.26

男子 800m

1	小野康介(2年)	1'55"52	7.30
2	坂口諒(3年)	1'55"63	4.8
3	早川航平(4年)	1'57"45	6.3
4	妹背雄太(4年)	1'57"48	4.30
5	伊藤龍一郎(3年)	1'58"47	6.3

男子 1500m

1	近藤秀一(3年)	3'53"75	4.8
2	妹背雄太(4年)	3'59"68	4.8
3	小野康介(2年)	4'03"74	8.27
4	渡部慎也(2年)	4'07"94	6.3
5	長谷川祐輝(3年)	4'12"85	7.29

男子 5000m

1	近藤秀一(3年)	14'23"62	9.30
2	阿部飛雄馬(2年)	15'08"07	7.30
3	松本啓岐(4年)	15'08"84	6.4
4	栗山一輝(2年)	15'17"27	6.4
5	妹背雄太(4年)	15'45"80	9.30

男子 10000m

1	近藤秀一(3年)	29'16"49	5.25
2	阿部飛雄馬(2年)	31'12"74	4.22
3	松本啓岐(4年)	31'21"69	4.22
4	栗山一輝(2年)	31'39"65	9.23

4 田村和也(4年) 32'43"71 4.22

男子 110mH

1 杉森康平(8年) 15"88(+1.6) 6.17
 2 寶田雅治(4年) 15"91(+0.8) 6.17
 3 村井輝(2年) 16"03(+1.3) 4.8
 4 松田光陽(2年) 16"12(0.0) 8.27
 5 中島盛喜(4年) 16"61(+1.7) 5.7

男子 400mH

1 兄井啓太郎(4年) 54"29 9.30
 2 松田光陽(2年) 56"53 7.1
 3 寶田雅治(4年) 56"65 7.1
 4 本田洋平(1年) 59"76 9.30
 5 中尾幸志郎(2年) 1'00"08 6.4

男子 3000mSC

1 阿部飛雄馬(2年) 9'35"80 7.30
 2 栗山一輝(2年) 9'50"93 7.1
 3 肱岡佑(3年) 9'52"18 3.25
 4 妹背雄太(4年) 9'52"76 3.25
 5 古賀淳平(2年) 10'05"38 9.16

男子 5000mW

1 渡邊成陽(5年) 20'52"99 7.1
 2 棟重賢治(4年) 21'08"55 6.17
 3 堀江駿(3年) 21'49"77 6.17
 4 千菊智也(1年) 22'20"08 7.30

男子 10000mW

1 堀江駿(3年) 44'39"77 5.27
 2 棟重賢治(4年) 46'00"02 5.27

男子 4×100mR

1 阿久津(2)-聲高(1)-河野(4)-長久(4)41"27 5.25
 2 井上(1)-聲高(1)-河野(4)-竹井(D2) 41"43 7.1
 3 井上(1)-聲高(1)-影山(2)-阿久津(2)41"52 7.30
 4 村井(2)-阿久津(2)-井上(1)-聲高(1)42"00 9.30

5 井上(1)-阿久津(2)-影山(2)-渡辺(3)42"19 6.17

男子 4×400mR

1 小嶋(3)-河野(4)-兄井(4)-長久(4) 3'17"45 7.30
 2 小嶋(3)-河野(4)-松田(2)-長久(4) 3'19"22 5.27
 3 小嶋(3)-河野(4)-松田(2)-長久(4) 3'21"14 7.1
 4 阿久津(2)-小嶋(3)-岩崎(1)-河野(4)3'22"57 8.27
 5 小嶋(3)-兄井(4)-長久(4)-河野(4) 3'23"50 6.17

男子走幅跳

1 木下秀明(3年) 7m18(-1.5) 4.6
 2 栗原怜也(1年) 6m98(+0.6) 8.27
 3 草野恒平(4年) 6m83(+1.4) 7.1
 4 藤原暉(2年) 6m79(-0.6) 4.6
 5 三宅功朔(2年) 6m58(+1.9) 8.6

男子三段跳

1 木下秀明(3年) 15m24(±0.0) 9.30
 2 平木基人(3年) 14m38(-0.3) 7.30
 3 原澤龍平(2年) 13m97(+0.8) 7.30
 4 毛利冬悟(3年) 13m87(-0.2) 9.30
 5 平井智史(2年) 13m63(+0.0) 8.27

男子走高跳

1 木下秀明(3年) 1m95 8.27
 2 赤塚智弥(2年) 1m90 6.17
 3 寶田雅治(4年) 1m65 3.18
 4 村井輝(2年) 1m60 5.6

男子棒高跳

1 三宅功朔(2年) 5m10 7.16
 2 寶田雅治(4年) 4m00 8.27
 3 戸部潤一郎(3年) 3m40 9.30
 3 村井輝(2年) 3m30 5.6

男子砲丸投

1 土井雅人(4年) 11m33 7.30
 2 加藤輝仁(4年) 11m21 6.17
 3 佐竹俊哉(3年) 10m97 7.30
 4 村井輝(2年) 9m54 5.6

5 山之内良太(4年) 9m29 6.17

男子円盤投

1 佐竹俊哉(3年) 34m79 8.27
 2 土井雅人(4年) 31m80 7.30
 3 山之内良太(4年) 30m84 9.30
 4 八木澤光大(3年) 27m62 8.27
 5 寶田雅治(4年) 23m86 3.19

男子やり投

1 加藤輝仁(4年) 50m86 7.30
 2 八木澤光大(3年) 49m22 7.1
 3 中村優太(1年) 47m44 8.27
 4 村井輝(2年) 44m33 8.6
 5 石田駿平(1年) 42m69 6.17

男子ハンマー投

1 加藤輝仁(4年) 31m89 7.29
 2 佐竹俊哉(3年) 17m69 8.5

女子100m

1 内山咲良(2年) 12"72(+0.6) 8.5
 2 坪浦諒子(4年) 13"07(±0.0) 9.30
 3 高石涼香(3年) 13"99(±0.0) 9.30

女子400m

1 坪浦諒子(4年) 58"11 9.30
 2 高石涼香(3年) 59"44 7.1

女子800m

1 高石涼香(2年) 2'11"23 7.23
 2 荒木玲(2年) 2'32"84 7.30

女子1500m

1 高石涼香(3年) 4'43"83 8.27
 2 藤原ゆか(3年) 4'57"03 8.5
 3 荒木玲(3年) 5'21"41 3.26
 4 堀越美菜(3年) 5'37"55 4.22

女子3000m

1 高石涼香(3年) 10'15"39 7.30
 2 藤原ゆか(3年) 10'57"21 7.30

女子5000m

1 堀越美菜(3年) 21'09"97 3.18

女子100mH

1 内山咲良(2年) 15"89(+1.8) 8.5

女子400mH

1 坪浦諒子(4年) 61"82 8.6

女子4×100mR

1 荒木(3)-坪浦(4)-内山(2)-高石(3) 51"23 7.30
 2 堀越(3)-坪浦(4)-内山(2)-高石(3) 52"70 8.27
 3 荒木(3)-坪浦(4)-堀越(3)-高石(3) 54"84 9.30

女子4×400mR

1 堀越(3)-荒木(3)-藤原(3)-高石(3) 4'35"34 7.1

女子走幅跳

1 内山咲良(2年) 5m41(+1.8) 6.17

女子走高跳

1 内山咲良(2年) 1m54 8.5

女子三段跳

1 内山咲良(2年) 11m43(+1.4) 7.1

女子砲丸投

1 内山咲良(2年) 7m64 8.27

8. 今季樹立東大記録一覧

(種目 氏名 (学年) タイム 日付)

800m 高石涼香(3年) 2'11"23 7.23

10000m 近藤秀一(3年) 29'16"49 5.25

三段跳 内山咲良(2年) 11m43(+1.4) 7.1

20km 近藤秀一(3年) 59分54秒 10.14

9. 主務より

9.1 応援OB・OG紹介

10/14に自衛隊立川駐屯地～国営昭和記念公園で行われました第94回箱根駅伝予選会に際し、応援に駆けつけてくださったOB・OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

昭和42年卒 伊澤敏彦
 昭和51年卒 田上静之
 昭和57年卒 中山亨
 平成13年卒 中台慎二
 平成13年卒 新妻拓弥
 平成16年卒 田坂和彦
 平成21年卒 金尾太郎
 平成25年卒 岩川純也
 平成25年卒 川端紘介
 平成25年卒 宮野健司
 平成25年卒 渡邊陽大
 平成26年卒 増田結心
 平成27年卒 筒井隆徳
 平成27年卒 原知明
 平成27年卒 吉原圭亮
 平成28年卒 秋山太陽
 平成28年卒 伊藤嘉宏
 平成28年卒 佐藤駿
 平成28年卒 鈴木敦士
 平成29年卒 網谷直紀
 平成29年卒 荒田彰吾
 平成29年卒 大久間啓介
 平成29年卒 坂出竜弥
 平成29年卒 櫻井悠也

また、北海道清里町からもたくさんの方々に応援にお越しくございました。心より感謝申し上げます。

9.2 連絡先

連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二

TEL : 03-5370-9370

Mail : Seiji_Saito@suntory.co.jp

学生主務：原島敏知

〒167-0054 東京都杉並区松庵 2-9-16

TEL : 090-8848-7525

Mail : shumu@uttf.org

学生主務補：荒木玲

Mail : uttf.shumuh@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.uttf.org>

学生主務 原島敏知

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の大島までお送り下さい。

部便り主任 大島知之

(Mail: uttfbdyri2017@gmail.com)